

令和4年は介護のプロであるケアマネージャー（以下“ケアマネ”）について、わかばクリニックのグループ事業所『居宅介護支援事業所わかば』のケアマネが実際に関わった事例を交えてご紹介しています。今回はお1人住まいの方について入院による環境の変化（状態悪化）時も含めてケアマネの対応をご紹介いたします。

### 【利用者様の状況】

・80代女性（Aさん）、主病はアルツハイマー型認知症、要介護1、1人住まい



- ・介護サービスはデイサービスを週5回、看護師の訪問を週1回、ヘルパーの訪問を週3回利用されていました。
- ・物盗られ妄想が時々あり、カギや財布などが見つからないと、焦って盗まれたと思い込まれていました。
- ・ただ、ケアマネが訪問し自宅内を一緒に探すと、結局引出しなど色々な場所で見つかり安心されるという状況を繰り返されていました。



#### （1）夕方の電話

- ・毎日夕方になると決まって事務所に電話があり、ケアマネは話を聴きながら「食事は食べられましたか」などいつも何気ない会話をしていました。
- ・特に何か用事があるわけではなく、毎日ほぼ同じ会話の繰り返しですが、ケアマネと話をすると安心し落ち着かれるのでしょうか、決まって2.3分程度の会話で切られる状況でした。



#### （2）入院されることとなり…

- ・介護が必要な状態ながらも、上記のようにケアマネのフォローと介護サービスによって平穏に暮らしていたAさんですが、ある時、胸椎の圧迫骨折で入院となってしまいました。
- ・入院中は不安が増したのか、自宅にいた時には夕方1回の電話だったが、毎日数回ケアマネに電話がかかるようになり、何度も自宅に帰りたいとの訴えがありました。



#### （3）退院されると…

- ・退院後は自宅のトイレの場所が分からなくなっただけでなく、食事を取ることも入浴されることも忘れる状態で、入院前には毎日あったケアマネへの電話もかかなくなっていました。

- ・状態の悪化を感じたケアマネは夕方のヘルパー訪問を増やすことが必要と考え、介護サービスを追加できるよう介護保険の区分変更を申請しました。
- ・ただ、申請から認定までは時間がかかります。その間にも、Aさんの認知症状は進み、一旦外に出ると自宅に戻れず警察からの連絡でケアマネが駆け付ける等の状況が続いたため、ケアマネが看護師、ヘルパー、デイサービスに情報提供を行い、連携し見守りを続けました。
- ・しかし、状況は悪化する一方で、最期まで自宅で過ごさせてあげたいと思いつつ、最終的には施設に入所せざるを得ない状況となりました。



#### ～解説～

- ・毎日決まって同じように電話がかかってきましたが、毎日同じ話を聞きながら安心してもらうことは、ケアマネには当然のことですが、とても大変なことですね。
- ・特に1人暮らしで介護が必要なお年寄りにとって、ケアマネはとても身近で信頼できる、ときには身内のような存在となっています。
- ・今回の事例のように環境の変化は生活習慣や精神状態の悪化に繋がりやすいため、ケアマネは退院直後などは特に気を付けて対応し、必要に応じ介護サービスの見直しを行う等の対応を行っています。



☆ご質問・ご相談等、  
お気軽にお声掛けください。



わかばクリニック

安心を  
お届けする

熊本市東区若葉3-13-20  
☎096-285-6014 web: wakaba-cl.jp